

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気の中で、入居者と職員の信頼関係を築き、その人らしい生活の場を作っていけるよう支援に取り組んでいる。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有し、より良いケアに向け、申し送りケア会議などを開き話し合いの場をもうけ日々検討している。	○	職員は理念を把握しているものの適格に述べる事は出来ない。運営理念の実現に向けて取り組んでいく様努めていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会で食事会を設けたり、生活状況・運営状況なども報告している。地域の人々には、集まりや散歩など外出時に会話することで事業所の実践を伝えるようにしている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くの無人販売への野菜・くだもの買い物など散歩に出掛け、あいさつを交わしたりしている。	○	近くの幼稚園児の訪問あり。各ユニットに年長児来て、歌を一緒に歌ったり、手遊び・折り紙を折ったりして交流している。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校への運動場を芝生にする行事に参加し、一緒に芝生を植え、交流を深める。		

あいの里悠々(なぐさ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>人材育成の貢献として実習生の受け入れも積極的に行っている。</p>	○	<p>地域住民を対象に認知症の理解や接し方の勉強会なども取り組んでいきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価を職員で行い、外部評価の結果をケア会議等で話し合い改善にむけて努めている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進委員会は2ヶ月に1回開催し、グループホームの活動報告、入居者の支援の取組みなど、民生委員、家族等を交え意見交換している。管理者会議を通じ、ケアに繁栄出来るよう取り組んでいる。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村担当者に対して、事業所の方針、ケアの取組みなどを常に報告している。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>入居者の方で利用している方がおられるので知識を習得し、活用できるよう努めている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>入浴時、着替え時等、入居者の身体状態を観察し、虐待を見過ごさないよう注意を払い防止に努めている。</p>		

あいの里悠々(なぐさ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書、契約書など入居時に十分説明と話し合いを行ない、納得を得て入所するようにしている。</p>	<p>○</p> <p>看取りについての対応、医療体制などは詳しく説明し、同意を得るようにしている。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の方の面会時にコミュニケーションを図り、訴えを聞き取る。 意見がある場合は、上司スタッフと共に相談しながら取り組んでいる。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的な新聞などの便りを通じて報告しています。また、ホームのリビングのボードにもなどにも外出の行事の写真なども貼っています。各個人にも電話連絡や面会時など積極的に関わりを持ち報告しています。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の会を実施し、家族間でのコミュニケーションを図り、ホーム内での食事会、外出などの機会に意見、不満、苦情等を聞き取りを行ない会議等で話し合うことで運営に反映できるようにしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1回全体会議を実施し、意見を聞くようにしている。日頃から、コミュニケーションを図るよう心掛けている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務時間は1ヶ月のシフトにて勤務しているが、行事、緊急時等職員が多く入るときは調整しながらスタッフを増やしたりして調整している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者、ご家族への信頼関係を築くためにも職員を固定化し、顔なじみの職員を心掛けている。 新職員に対しても混乱しないよう、職員同士が協力し合い支えながら支援行う。</p>	

あいの里悠々(なぐさ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループホーム連絡会の参加、認知症実践者研修、リーダー研修、管理者研修などを通じ育成に力を入れています。又、社員の介護に関する資格等の取得にも金銭面での援助を行なっています。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会の交換研修を設けて、グループケアにたずさわるものとして質の向上に励んでいる。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>管理者がスタッフと常時話し合いの機会を持ち、ストレスを溜めながら仕事を行わないようにしている。又、親睦会も行っている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>自己申告書及び人事考課表を用いて各職員の意見や要望を運営者が把握できるようにしている。またスタッフが向上心を持って勤務に打ち込めるよう、運営者が都度ヒアリングを行ない向上心を持って仕事に打ち込めるよう支援している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居時本人との面談を行ないコミュニケーションをとりながら信頼関係を築き本人の日常生活を送る上で不安なこと、ニーズを把握するように努めています。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居時、家族の方との十分な時間をかけての自宅訪問での面談を行い、家族の方との話し合いをする中で不安なことや求めていることを把握しつつ、家族とスタッフがお互い協力し合い支援することで信頼関係を築けるように努めている。</p>	

あいの里悠々(なぐさ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、家族の想いや状況等を確認し、可能な限り柔軟な対応を行ない改善に向けた支援の提案、適切なサービスを提供できるようにしています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームの行事に参加されたり、家族の方とホームを見学、又は事前にホームで日中過ごされたりと職員や他の入居者の方と馴染みの関係を築きながら安心して生活して頂けるように努めています。また、法人のサービスを継続的に利用されている方や、地域住民を積極的に受け入れることで、入居者に安心した日常生活を送ってもらえるよう心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、支援される側という意見を持たず、お互いが支えあい和やかな生活ができるよう日常生活を送っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員と入居者家族がコミュニケーションを図りホームでの生活状態など報告することで、入居者の状態を家族と共に共有し、理解を得ながら共に入居者の生活を支えていけるよう声掛けを行い実施していただいている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の日常の状態をこまめに報告、相談し、家族が良い関係になるように工夫している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方・知人が面会に来られたときは、ゆったりと入居者の居室で過ごして頂いたり、ホームの食事、おやつ等一緒に食べられたり、同じ時間を過ごしています。買物などで出かけたときなど馴染みの場所をドライブして昔を思い出して頂いています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士での共同作業、趣味、レクリエーションの時間を作り、入居者同士がお互い支えることが出来る雰囲気作りに努めている。入居者同士互いに居室訪問等の援助も行なっています。		

あいの里悠々(なぐさ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの利用が終了しても行事に招待したり、遊びに来てもらったりと連絡調整を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声を掛け、入居者の意思の把握に努めている。本人にとって、どのように暮らす事が一番なのかを家族を交えて話し合っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人自身からの話や、家族からの訪問時等少しずつ把握に努めている。 センター方式の書式を活用している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日の暮らし方や生活リズムを理解し、声掛けコミュニケーションして本人のペースで安心して生活できるよう勤めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には、日頃のかかわりの中で、意見を聞き反映させている。職員間でモニタリングカンファレンスを行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行なっているが、状態が変化した際、本人・家族の要望に応じてヒアリングし見直しを行なうことで必要時に応じ新たなプランを作成している。		

あいの里悠々(なぐさ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに食事、排泄等身体状態及び、日々の生活状況。本人の言葉などを記録している。すべての職員が確認できるよう、勤務開始前の申し送りの確認は、義務づけている。		
h				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算を算定して、訪問看護ステーションと契約を結ぶことにより、利用者及び利用者の家族がターミナルケアを希望すれば対応できるように支援している。又、医療機関においても、整形外科、内科、皮膚科、脳神経外科、歯科の医師が、必要時に往診してもらえるよう、ホームからアプローチしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員や地域の交番所、消防の方の訪問と地域で協力しながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の前の担当ケアマネジャーと連携を図って意見交換をしている。他のサービスでは本人の体調に応じて、訪問理美容、訪問看護サービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	オムツ等の支給・運営推進会議等で地域包括センターと協力している。ホームへの入所空き状況などの問い合わせなどもある。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、本人及び家族の希望を優先して主治医に依頼し、定期的な訪問往診や、総合健診を行っている。ご家族と協力し通院介助を行なったり、複数の医療機関と関係を密にしている。	○	整形外科への送迎リハビリサービス、地域の接骨院からの訪問リハビリも受けられるようになった。

あいの里悠々(なぐさ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	1人ひとりのプライバシーを損ねるような言葉掛けを職員がしないことを徹底。職員同士が話し合いながら支援を行っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	入浴・食事の時間は、個人の希望をあわせて自由にしています。職員側で決めた事を押し付ける事はせず、入居者の自己決定ができるよう支援しています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、時間を区切った過し方はせず、1人ひとりのその日、その時間の本人の気持ちを尊重している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えは本人の意思で決めている。 理容は訪問理容をしてもらい、本人の希望を尊重している。	○ 本人が直接お店に出向き、一緒に服を選べるような支援もしていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、入居者の方の意見も聞きながら決めたり、職員全員が同じ物を一緒に食べている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	煙草、飲み物、おやつ等の中で危険な物、生もの等は腐る恐れがあるのでスタッフが保管しているが、主治医、家族に話し合いを持ちながら継続的に入居者が継続的に嗜好が楽しめるように支援している。	

あいの里悠々(なぐさ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や習慣を把握し、トイレ誘導し、トイレでの排泄を促している。毎日の健康チェック表には、排便のチェックを記入し、支援を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は人為配置の都合で昼間の入浴となっており、希望する時間を入居者に聞いたりして支援を行なっている。又、夜間入浴を希望された時は、状況に応じて支援を行なっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促し、昼夜逆転しないよう配慮している。寝れない時は、スタッフと飲み物を飲んで話をしたり、テレビを見たりしてリラックスして過ごす。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1人ひとりの出来る力を発揮して貰えるよう仕事を頼み、感謝の言葉を伝える。入居者の趣味に合わせて支援を行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額の小遣いは持って頂いているが、物盗られ妄想など、利用者同士のトラブルもあり、今は持ってもらっていない。買物時など入居者の方にお金を渡し、立替えなどを行ない希望に応じ好きな物を購入している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者が生活習慣として行なっている中庭の散歩、畑仕事と個々の個性を活かした外出支援を行なっています。又、ドライブ、外食、買物など個人の健康状態を配慮して支援を行なっています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	四季折々の外出支援に努めています。動物園に行き動物とふれあったり、ファミリーレストランへコーヒーを飲み外に出したりしている。家族と一緒に、買い物に外出する場合もある。		

あいの里悠々(なぐさ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が自由に家族及び知り合いの方に、電話をしたり、手紙を書いて郵送したりできるように支援しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居者の人と一緒に食事、お茶やおやつを楽しんでもらえるよう支援しています。面会時間などは定めておらず、ご家族の都合の良い時間帯に、いつでも訪ねて来ていただけるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、身体拘束することによる入居者のストレス、機能レベルの低下等スタッフが理解しています。又、自由に入居者の方が動け、転倒等のリスクが伴わないよう、スタッフが気配り、目配りを行なっています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本理念として、鍵の掛けないように徹底しています。入居者の中に、徘徊及び帰宅願望等ある入居者の方については、スタッフが声掛けコミュニケーションを行ない、入居者のストレスを軽減したり、違うことに目を向けることによって訴えを軽減したりしています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、常にリビングで生活する入居者の方が多く、入居者とスタッフが関わる時間を増やすことで、入居者の体調の状態把握に努めている。又、プライバシーや自尊心を傷付けないような、さりげない声掛けを心掛けている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くのではなく、入居者の状況により注意を促していくなど、ケースに応じた対応をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	万が一、事故が発生した場合、事故報告書を作成し、事故原因の予防対策について検討を行っている。		

あいの里悠々(なぐさ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	グループホーム連絡会で救命救急法の参加したり、救急のマニュアル本を読むことによりスタッフが対応できるようにしている。又、夜間の救急時等、救急に病院に行ったときの連絡・対応方法をスタッフが目に付くところに貼っており、周知徹底している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回利用者と共に防火訓練を行ったり、消火器の使い方などの訓練を行っている。又、業者による防火設備の点検を定期的に行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	グループホームに入居時の契約及び重要事項説明時に必ずリスクに関しての説明を入居者及び家族に説明を行ない納得した上で入居して頂けるようにしている。又、入居中の状態変化によって新たなリスクが生じた場合には、スタッフ、家族、主治医も含めて話し合いを持つことで、家族に理解を得ながら入居して頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、排泄のチェック、食欲や顔色・様子等の変化がみられた場合は主治医及び、訪看、家族に相談し医療受診に来てもらったりしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の一覧表を作成し、職員が内容を把握できるようにしている。薬の辞典を購入し、効力及び副作用について勉強できるようにしている。服薬時は、本人に手渡し服用できるか確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取を積極的に行い、乳製品を取り入れ、散歩など身体を動かす機会を設けて、自然排便をできるように支援している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き声掛けを行い、就寝前は義歯の洗浄を行っている。		

あいの里悠々(なぐさ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎食後チェックし記録している。水分は3回の食事、おやつ時2回、入浴後には必ず摂取してもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてマニュアルがあり、スタッフで予防・対策に努めている。手洗い、うがいは必ず実施し、利用者・職員共にインフルエンザ予防接種も受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきん等は、漂白し清潔を心掛けている。食材も新鮮で安全なものを使用し、食材の残りの点検も頻繁に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには花を置いたり、入居者の写真を貼ったりして家族、知人にも気軽に訪問しやすい雰囲気に徹している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗濯物干し、たたみ、掃除、ゴミ捨てなど職員と一緒に行うことで、ここは家だ、という意識を高めてもらえるような工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の個性を大切にしながら、ソファーに座って一緒にテレビを観たり、居室・リビングを自由に動けるよう日常生活を送っている。		

あいの里悠々(なぐさ)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	、居室においても入居者家族に協力してもらい馴染みの家具や衣類、写真等を取り入れている。又、入居者の好みや使い慣れた物品なども常時持ち込み可能な状態にしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床後、換気を行ったり、掃除の際には窓を開けたりしています。暑すぎず、寒すぎずをスタッフが配慮しながら夏にはクーラー、冬にはエアコンを活用し快適に過ごして頂き、入居者の状況に応じて調整していますが、入居者の認知症状により換気する為、窓を開けても閉めてしまう入居者の方があるので、難しい面はあるが都度スタッフが声掛けを行		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、ベランダ、トイレ、お風呂場など、ホーム内には手すりがあり、自由に日常生活を送れるようになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	掃除、洗濯物干し、たたみ等、職員と一緒にいき、持っている能力を十分に使っている。入居者が混乱や失敗が生じた時は、一緒になって話を聞き、時間を掛けてゆっくり解決するようにしています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りには、芝生や藤たなとその下にベンチがあり、ゆっくり休憩できるようにしています。ベランダにはプランターに花やいちごなど、入居者の方と一緒に植えたりしています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

あいの里悠々(なぐさ)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホームが地域の中で根付いていく為には、入居者、家族を含めて地域との交流が大切であると感じる。

特に、小さい子供との交わりが入居者にとっては、表情が穏やかになる時間である。

近くの幼稚園児との交流をより深め、地域に溶け込むホームとして、又地域の認知症高齢者の理解を得られるよう啓発活動を行ってきたい。